


ふりがな 氏名	おおむろ ひな 大室 ひな	都道府県	広島県	
所属/肩書	呉工業高等専門学校環境都市工学科			
私のESD活動	国際的な感覚を有して、住み続けられる街づくりのために身近な地域の課題を解決する方法を研究している			

活動の概要

私は将来、海外で活躍したいと思っています。これまでに一年間の交換留学を経験し、また、学内外の国際交流イベントに多数参加、自ら企画もしました。

そうした経験を通じ、現在感じている課題があります。国際的な活動にも、ローカルな視点が求められているということです。私は交通・まちづくり分野の研究室に所属していますが、ミッションである「より良い未来とまちをつくる」という視点では、地域との連携といった、ローカルな視点も国内・海外問わず求められると感じています。

現在、動物園と地域住民が連携した、住み続けられる郊外オールドニュータウンの活性化の取り組みに、研究室の学生チームで自主プロジェクトとして活動しています。このプロジェクトは、動物園前のバス停のデザインを改革することで、路線バスの利用促進のみならず、動物園の来場者促進、周辺の住宅団地の活性化を図るものです。こうしたテーマで動物園やバス会社・国・地域住民と連携して進めていく事例は殆どない、新しい取り組みであり、メディアからの取材も受けるなど非常に注目されています。安佐動物園には外国人も多く訪れており、次のステップとして地域住民と外国人の交流や、この方法を海外に輸出することも考えられます。

このように、国際感覚を持ってローカルな課題解決に取り組み、そしてその仕組みを海外にも展開するという視点を持って進めることが、先駆的な取り組みであると考えています。

○「中国新聞アルファ」掲載記事

http://www.chugoku-np.co.jp/local/news/article.php?comment_id=359618&comment_sub_id=0&category_id=110

今後の活動や協働への展望

私は、コンファレンス参加後は国内外の地域のローカルな課題を解決するプロジェクトを自ら実践者として展開していきたいと考えています。

そのために普段は講義や研究等で専門知識を深め、そして、このコンファレンスで出会った参加者の方たちと、コンファレンス終了後もビデオチャットなどを通してディスカッションや情報交換などしたいと考えています。そして、長期休暇などを利用して、実際に海外や国内の地域を訪れてローカルな課題を解決するプロジェクトを実践していくことができると思います。

例えば、2020年の東京オリンピックの開催後のまちづくりについて考えるために過去に開催地であった海外の都市を訪れ、現地ではどのような課題があり、それにどのように取り組んできたのかを調査し、それを日本に持ち帰り生かせるものは実践してみるといったケースが考えられます。また、国内においても、外国人のインバウンド需要を取り込んで、外国人を日本の国内で交流させるような取り組みもできると考えています。住み続けられるまちづくりのためには、その地域の人口流出が大きな課題となっていますが、その地域に住む人口が減少しても、外から訪れる人を増加させることでまちの経済を維持し住み続けられるまちづくりができるのではないかと考えています。

このようなプロジェクトを他分野の方々と協働で、様々な視点から問題を捉えながら実践していきたいです。